

平成 1 1 年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録から)

財団法人 尾瀬保護財団

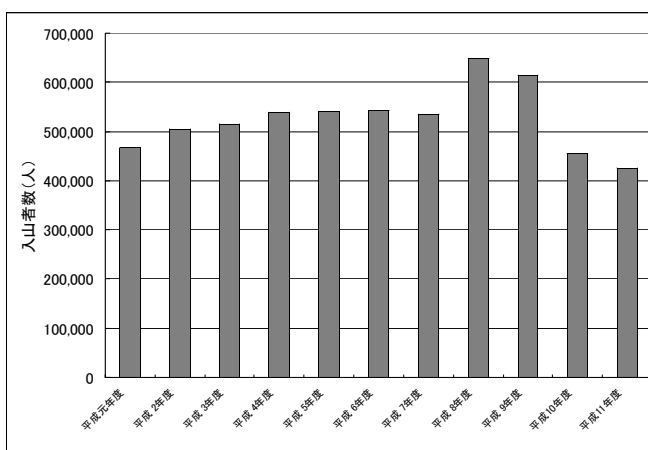
目 次

1	入山者数の状況	1
2	傷病事故の発生状況	1
(1)	年別発生状況	1
(2)	地域別発生状況	2
(3)	原因別発生状況	2
(4)	シーズン別発生状況	3
(5)	月別発生状況	3
(6)	年齢別・男女別発生状況	4
(7)	傷病者の居住地別発生状況	4
(8)	グループ人数別発生状況	4
(9)	傷病事故の通報状況	5
3	救助活動	5
(1)	救助隊出動状況	5
(2)	ヘリコプター活用状況	6

1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は5月大型連休後から10月中旬までであるが、同期間で環境省が各登山口に計測するセンサーを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、平成元年から平成6年まで徐々に増え続けてきた入山者数は、平成8年の約65万人をピークにして減少傾向に転じ、平成11年が約43万人となり、ピーク時の4分の3程度になった。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9
平成10年	455,409	74.1
平成11年	425,807	93.5



尾瀬の入山者数の推移(環境省のデータから作成)

2 傷病事故の発生状況

(1) 年別発生状況

平成11年度に尾瀬保護財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター(群馬県より管理受託)、尾瀬沼ビジターセンター(環境省より管理受託)職員が出動した傷病事故は、55件発生した。

年度	区分	発生件数 (件)	遭難者(人)			
			死亡	行方不明	負傷	計
8年度		16			16	16
9年度		33	2		31	33
10年度		49	4		45	49
11年度		55	1		54	55

(2) 地域別発生状況

地域別では大江湿原・沼北岸での事故発生率が23.6%と最も高く、ついで沼山峠～尾瀬沼、至仏山、鳩待峠～山ノ鼻で多く発生している。至仏山の登山道の一つである東面登山道が、平成9年8月に閉鎖解除となったため、至仏山利用者が増えたことに伴う事故増加が目立ってきている。

地域別	区分	発生件数 (件)	発生 比率	遭 難 者 (人)			
				死亡	行方不明	負傷	計
鳩待峠～山ノ鼻		7	12.7			7	7
尾瀬ヶ原		4	7.3			4	4
三条ノ滝		0	0				
大江湿原・沼北岸 (VC周辺を含む)		13	23.6			13	13
尾瀬沼南岸		2	3.6			2	2
沼山峠～尾瀬沼		8	14.6			8	8
大清水～尾瀬沼		0	0				
尾瀬沼その他の地域		3	5.5			3	3
燧裏林道		0	0				
アヤメ平		2	3.6			2	2
至仏山		8	14.6	1		7	8
燧ヶ岳		1	1.8			1	1
不明		7	12.7			7	7
合 計		55	100.0	1		54	55

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では木道上での転倒事故が31件であり、全体の半数以上を占めている。死亡事故の1件は自殺であり山岳事故ではなかった。その他には、ツキノワグマによる人身事故や、スズメバチの虫さされ(2件)などが傷病の原因であった。

原因別	区分	発生件数 (件)	遭 難 者 (人)				
			死亡	行方不明	負傷	救出	計
木道上の転倒		31			18	13	31
歩道上の転倒		5			1	4	5
病気		4			3	1	4
疲労・低体温		5				5	5
落石		0					
道に迷い		0					
雪崩・雪渓崩落		0					
落雷		0					
徒渉失敗		0					

その他	8	1		5	2	8
不明	2			2		2
合 計	5 5	1		2 9	2 5	5 5

(4) シーズン別発生状況

シーズン別では春山、夏山での発生が多かった。

区分 シーズン別	発生件数 (件)	遭 難 者 (人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
春山(4・5・6月)	2 0			1 3	7	2 0
夏山(7・8月)	2 6	1		1 3	1 2	2 6
秋山(9・10・11月)	8			1	7	8
冬山	1				1	1
合計	5 5	1		2 7	2 7	5 5

(5) 月別発生状況

月別発生では6、7、8月が多く、それぞれ15件(27.3%)、14件(25.5%)、12件(21.8%)であった。この3ヶ月で全体の7割を超え、登山者が多い夏山に傷病事故が集中する傾向が見られた。

区分 原因別	発生件数 (件)	遭 難 者 (人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
4月	0					
5月	5			4	1	5
6月	1 5			9	6	1 5
7月	1 4			7	7	1 4
8月	1 2	1		6	5	1 2
9月	3				3	3
10月	5			1	4	5
11月	0					
(H12) 3月	1				1	1
合 計	5 5	1		2 7	2 7	5 5

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢・性別についての記載漏れが多く、すべて不明扱いとした。

区分 年代別	性別不明（人）					比率 （%）
	死亡	行方不明	負傷	救出	計	
10代					0	0
20代					0	
30代					0	
40代					0	0
50代					0	
60代					0	
70代以上					0	
年齢不明	1		27	27	55	100.0
合計	1		27	27	55	100.0

(7) 傷病者の居住地別発生状況

居住地についての記載漏れが多く、すべて不明扱いとした。

区分	死亡	行方不明	負傷	救出	計
都道府県別 不明	1		27	27	55
合計	1		27	27	55

(8) グループ人数別発生状況

傷病者からの聞き取り内容として記載漏れが多く、データ数が揃わなかったため、割愛した。

(9) 傷病事故の通報状況

通報状況は本人がビジターセンターへ移動しての口頭での通報が26件(42.3%)、山小屋や救助隊からの出動要請が28件(50.9%)であった。携帯電話はアヤマ平西側の横田代からの通報であった。尾瀬地域は携帯エリアではないが、山岳地の山頂部や稜線部では部分的に通話可能であり、こうした救助要請が増加するものと思われる。

通報別	通 報 者 (件)						比率 (%)
	本人	家族	同行者	他人	山小屋 救助隊	計	
口 頭	26				28	54	98.2
携帯電話	1					1	1.8
電 話							
アマチュア無線							
その他無線							
不 明							
合 計	27				28	55	100.0
比 率	49.1				50.9	100.0	

3 救助活動

(1) 傷病者対応時の出動状況

出動状況は、ビジター職員・山小屋従業員等で構成される救助隊の出動が28件(42.8%)、ビジターセンターでの対応が27件(42.2%)であった。

年度	区分	発生件数 (件)	消防	救助隊	ビジター センターのみ	一般	合計
平成8年度		16	2	4	12		18
平成9年度		33	12	20	10		42
平成10年度		49	8	33	16		57
平成11年度		55	9	28	27		64

(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故55件のうち5件(9.1%)にヘリコプターを依頼し、5人を搬送した。

年度 \ 区分	依頼件数 (件)	負傷者救助 (人)	病人等救助 (人)	行方不明 (人)	遺体収容 (体)
平成8年度	2	1	1		
平成9年度	5	3	1	1	
平成10年度	3	3			
平成11年度	5	5			